

北九州市立響灘緑地  
指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月16日(火) 13:30~17:20
- 2 場 所 北九州役所(小倉北区内1番1号) 12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛構成員(座長)、横山構成員、福地構成員、城水構成員  
横田構成員  
(事務局) 建設局公園管理課長、公園管理課企画係長、職員

4 会議内容

○当日のスケジュール、審査にあたっての留意点、審査結果の公表等について事務局より説明。

○構成員の互選により、座長を選出。

○応募団体(響灘緑地パークアップ共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 公園の管理者として実績・経験がたくさんのあるということだが、この北九州の響灘緑地(グリーンパーク)ならではの特性や強みというものを、一言二言で言うと、どのようにとらえているのかを教えていただきたいのが一つ。もう一つが、もし、ここで指定管理の指定を受けるとなると、指定期間中にグリーンパークのちょうど30周年を迎えることになる。この点については提案書にはなかったと思うが、もし考えがあれば教えていただきたい。以上2点。

(応募団体) まず、一つ目の質問、グリーンパークの大きな特徴としては、北九州の都市公園を牽引する存在だと考えている。それだけ大きな広域レクリエーションに対応できる公園かと思っているが、公園単体ではなく、その賑わいが北九州の活力自体につながられる、そういったポテンシャルを秘めている公園だと思っている。よって、公園の賑わいだけではなく、我々が呼び込むことによって、北九州の街の印象を変えられる、そのようなパークマネジメントに取り組みたいと思っている。

もう一つ、30周年についてのご指摘だが、提案書には実現性の関係もあり載せていないが、大規模コンサートの誘致を考えている。市民も喜ぶようなアーティストを呼びながら、大幅に人数を増やす、そういった施策を考えているところである。過去には、2万人ほどのコンサートの開催実績もあると聞いており、1万5千人くらいの開催規模のコンサートを想定しているところである。

(構成員) 園内移動も課題の一つだと思う。今回、新しい未来型のモビリティ、マルチパーパスモビリティやパークガイドビークルの導入も検討されているということだが、具体的にどれくらいの量で、どれくらいの金額で実施するという案があれば教えて欲しい。

(応募団体) これは、まだ国営公園でも導入していないのだが、昨年度、実証実験を国営ひたち海浜公園で行い、今年度から販売が開始されたモビリティである。この公園では初年度から5台導入して、試行することを考えており、1台500円でのリースを考えている。この試行は社会福祉事業者の方々を対象に、我々が考えている福祉駐車場利用サービスと一体となった試行を考えている。特に、このマルチパーパスモビリティは、汎用車椅子をサポートする機能も付いているので、事業所のリーダーの方の意見も踏まえながら、利活用策を試行的に実施したいと思っている。1年目の試行を経て、2年目の本格導入を考えている。

(構成員) 3つたずねる。まず、公園財団さんが入っているということで、いろいろグローバルな視点もあるかと思うのだが、提案書2ページに「地域が誇る世界水準の公園」と書かれてあったが、この響灘緑地が日本中の公園と較べて、どこが魅力で、どのようにしたいと思っているのかについて、もう一度教えていただきたい。

次に、北九州は少子高齢化の街である。これから入園者を呼び込んでいくためには、どうしても高齢者にどうやって来てもらうかという考えが必要。園内の移動も大変であるため、その点についてもう少し積極的な提案がないのかなと思っている。園内移動に困難を感じてはいるが、車椅子には抵抗がある方が多いので、そういった方への対応も含めて試しにやってみるという事だとは思いますが、その辺りをもう一度聞きたい。また、今、公園に来るまでのアクセスがどうしても悪く、マイカーがないと来られない状況である。そのあたりをどう考えているかについて聞きたい。

それから、20ページ、48ページ、55ページで観光・学習・インバウンドという言葉が出てくるが、それについてもう少し具体的な説明、どういうところに力を入れて、インバウンドの興味がここにあるので、このようなPRをしたい、というようなことがあれば教えて欲しい。

(応募団体) まず、グリーンパークの特性というか、全国的なレベルとしてのバランスについては、企画書の29ページをご覧ください。先程、本説の時にも説明したのだが、我々は市が掲げるグリーン成長都市というものに大変共鳴している。北九州市がSDGs戦略として、世界のモデル都市6つのうちの1つに選ばれており、ビジョンにある「真の豊かさ」に溢れる「グリーン成長都市」して、経済・社会・環境、この3つの施策に重点的に取り組むと掲げている。そして、この施策に都市公園として大きく貢献できるのは、グリーンパークだけだと思っている。公園を変えることによって、街の印象を変えることがある。私どもは全国でそういった経験が実際にある。茨城県のひたち海浜公園でネモフィラの絶景という花の風景を作ったり、また、自治体の公園では新宿町公園という公園には、以前はホームレスがたくさんいたが、パークマネジメントによって0になったりとか、そういう公園が街を変えるという経験がある。北九州に関しての公園の特性としては、こういった社会的な課題を都市公園が解決するんだという思い、そういったポテンシャルを秘めているというのが一つの認識である。

2つ目の質問だが、高齢者の移動補助については、未来型のモビリティもあるが、このパークガイドビークルによる駐車場からメイン施設である都市緑化センターなどへの移動補助を考えており、今のところは繁忙期等に有料での実施を考えている。また、これは年間でリースし、それによって、団体客の来園時にも、平日でも柔軟に移動補助が出来る

と思っている。

3点目のインバウンドだが、茨城県の事例も含めて、我々の全国での経験上、本当に花が原動力だと思っている。北九州でもこれができるのが白野江植物公園と響灘緑地、この2大拠点だと思っており、実際に白野江植物公園はインバウンドの来園者が大変増えている。我々、関門海峡観光推進協議会にも参画することに加え、今回、花そのものの魅力をもっと充実していくので、ここに相応しい牽引する存在になるのではないかと考えている。それは「Kitakyu Park Network」もわかりだが、次の「ガーデンツーリズム」、こちらも、北九州だけではなく、北部九州エリアとして海の中道海浜公園をはじめ、のこのしまアイランドパーク、福岡市植物園、そういうところを我々が牽引するくらいの気概でインバウンドには取り組んでいきたいと考えている。

なお、交通弱者の方に対する対応としては、現在、職員の方が使っている最も公園へのアクセスに便利な駐車場については、私どもは、予約制もしくは事前申し込み制で交通弱者の方が使える駐車場に変えていきたいなども考えている。

(構成員) 2番目の質問に関連して、マイカー以外でのアクセスについての質問もあったと思うのだが。

(応募団体) 補足が漏れていたようだ。マイカー以外でのアクセスについては、西鉄グループネットワークの力を活かし、ピーク時にはなるが、西鉄バスによるシャトルバスを考えている。具体的には、黒崎駅あるいは折尾駅といった場所からのシャトル便を考えており、実態を見ながらにはなるが、交通弱者配慮としても提案の中には入れさせていただいている。過去にシャトル便の事例はあったということであるので、それを参考に今回、協力を検討させていただいている。

(構成員) 熱帯生態園の中に新しい沖縄関係の植栽を入れるということであるが、それにより、今の生態系に問題がないのかどうかを教えていただきたい。

また、桜やアジサイ等、シーズンごとの植栽をやっていくということだが、普通の花であれば植え替えなどで対応できるのだろうが、アジサイや樹木等になると他の場所に移すわけにもいかないの、シーズン以外の活用をどうするのか教えていただきたい。

それから、冬の間にお客さんにもう少し来てもらうということであるが、あのような吹きさらしの場所で、冬にそんなに連れて来て、どうするのか。暖房対策というか、少しでも温まった後にまた外に出て行ける、そのような場所がないと無理ではないか、という思いがあるが、その辺りの対策はどう考えておられるのか教えて欲しい。

(応募団体) 先ず、生態園の取り組みだが、現状が左上の写真のようになっており、冬場の利用促進として、企画展示ということでこの絵のようなイメージを考えている。生態系については、現在の水槽展示、特に魚類では、熱帯のイメージとは逆に魚食性の大型ものが入っているので、熱帯の生態という意味で展示内容が弱いと考えている。提案の中では、熱帯性特有の多様性であるとか、カラフルな魚類、そういう個体を少しずつ展示出来ればと思っているので、現在飼育している動物の状況を鑑みながら、対応を考えていきたいと思っている。

2点目はアジサイについての説明だったか。

(構成員) アジサイや桜などの定住植物の活用は、シーズン外はどうするのかという質問。

(応募団体) アジサイや桜などの定住植物の活用については、6ページ目のビジョンマップの絵を見

て欲しいのだが、提案では現在の未利用地の活用を考えている。6ページ目の左のところにため池がある。その上にアジサイの絵が少し描いてあるところに日本庭園の跡地があり、日本庭園の滝の流れるような場所があるのだが、そこが一切放置されているような状況である。そういった放棄地を市民の方に協力いただきながら、挿し芽という形でアジサイを少しずつ増やしていきたいと思っている。また、アジサイでは高塔山公園が名所になっているが、グリーンパークはその高塔山公園まで玄海自然歩道でつながっている。将来的には高塔山まで歩いて繋ぐアジサイウォークというのをイメージしながら、早急にというわけではないが、中長期的な観点でアジサイを植えていきたいと思っている。桜についてはビジョンマップの上部のスペースに少し桜を書いているが、ここではサトザクラを少しずつ増やしていきたいと思っている。サトザクラは品種が非常に多いので、開花期を少しずつらしながら、4月中旬ぐらいまで楽しめる品種だと思っている。

5年間で全部ゴールとはしていない。もっと花の公園として印象付けられるような取り組み、可能なエリアが繋げるような取り組みとして、中長期的な観点の始まりの一步と捉えていただきたい。3点目…。

(構成員) 冬の利用、冬の利用時の暖房についての説明を。

(応募団体) おっしゃるとおり、響灘緑地は冬風が非常に強い状況だと私たちも重々認識している。その中でも冬の取り組みについては、「冬のわんぱく」として提案書の40ページに提案させてもらっている。我々の思い・希望としては、冬の外の環境でも遊んで欲しいということがあり、大芝生広場でおもしろ自転車走らせるなど、そのような外の遊びは考えている。しかし、やはり寒いというのはあると思うので、都市緑化センターのホールを活用しながら「かえっこバザール」といったおもちゃのフリーマーケットのようなもの、「セルフクラフト体験」など、室内でのプログラムも充実させたいと思っている。先程の熱帯生態園の情報でも説明した企画展も冬季の利用促進としてプログラムを行っていくので、外も中も楽しめるそういった「冬のわんぱく」を提供していきたいと思っている。

また、冬季の利用促進として、冬期3か月間は無料開放とすることで来園してもらい、いろいろなプログラムを用意して遊んでいただくという、少し大胆な提案をさせていただいている。なお、収入の部分については、駐車場収入で十分カバーできると試算している。

(構成員) 今ある施設の中での暖房ということではなく、遊ぶ近くというか、園内に点在的に暖房施設を作っておかないと、結局、暖を取るために熱帯園や都市緑化センターに戻って、また外に遊びに行くとなると、なかなか億劫で行かないのではないかと。特に、子どものワンパークについては、親は一緒に行っても見ているだけだと非常に寒いので、その対策がどうかなど。

(応募団体) 確かにご指摘の通りだと思うので、51ページ、52ページに記載しているとおり、利用していない方のニーズ把握もやっていきたいと思っている。特に52ページに記載しているとおり、非来園者を対象としたネットリサーチや、グリーンパークの近くまで来ている方、お子様連れのお母様へのグループインタビュー等により、来園しない理由や、冬にどうすれば来てくれるか、そういう点について細かなニーズを聞き出しながら、この「冬のわんぱく」の充実化を図っていきたいと考えている。

(構成員) 出来るかどうかは分からないが、大きなテントのようなものをあちこちに置いておいて、

そこに入って暖を取れるとか、そういうことを考えないと。冬場は30分外に出ているら大変なことになると思う。

(構成員) 今、利用者の方の意見についての回答もあったが、例えば、提案書の50ページ、現状での利用者の意見について書かれているが、このアンケート調査は委託して実施したものなのか。

(応募団体) タイトルに26～29年度アンケート調査とあるが、これは、我々が市に請求をし、それに対して開示されたものであるので、実際の来園者から寄せられた生の声である。

(構成員) 利用者の意見はこれだけだったのか、それとも抜粋したのか。

(応募団体) もちろん、これは重点的改善が必要であろうという点について、抜粋させてもらったものである。当然、意見としてはたくさんあったが、特に満足度に関連する部分だけを抜き出した。

(構成員) 最初のコンセプトの所でトップレベルの水準と書かれているが、何を持ってトップレベルなのかということを知りたかったのと、そのためにスタッフの方の教育などに対して、特に力を入れて、何か違ったこととして提案されている点があれば教えて欲しい。

もうひとつは、先程出てきたがインバウンドについて。公園に来てもらって、公園の中で満足していただくということが大切だと思うが、インバウンドに対するおもてなしとして何か考えていることがあるか教えて欲しい。

(応募団体) トップレベルについては、まず、数値目標を掲げさせていただいている。現管理者様も満足度は非常に高いものを示しているが、我々も98%の満足度の数値目標をまず掲げている。これは十分に高い数値かと考えているが、まず数字としてはこれを達成するということである。

スタッフの教育については、我々の全国で公園を管理させていただいている実績を基にした「サービス接遇」という基礎研修が、研修としてしっかりと成立しているところである。それをグリーンパークでも実施させていただき、スタッフ研修を徹底していきたいと思っている。その研修については、研修一覧というのが70ページに記載しているので、こちらをご覧いただきたい。研修の中でも我々はまず、基礎研修というものを何よりも重視している。公園の基礎情報だけではなく、今申し上げた公園の運営目標や、先程お見せしたビジョンマップなども示しながら、職員だけではなく現地のスタッフも含めて、全員がこういったビジョンを持ってやっていくのだと、公園として目指していく運営の姿を共有していく予定である。このようなサービス接遇も含めた基礎研修は、業務開始前・採用時のタイミングで実施させていただく。あとは定期研修として、接客・接遇研修というもの、在籍するサービス介助士やサービス接遇検定を持ったスタッフにより随時実施する。

また、北九州市は高齢化の進む街、あるいは、少子化がすすんでいるとも言われているが、一方で住みやすい街ランキング1位と掲げられている。その中でユニバーサルデザインとして、住みやすい街というのをPRするような接遇が出来る研修も年に1回はやっていく予定である。おもてなしに関する対応はこのような内容を予定している。

(構成員) インバウンドについては？

(応募団体) インバウンドに対するおもてなしは、これもユニバーサルデザインの中にも含まれるのだが、ピクトデザインであったり、お声がけ一つだったりとは私たちが思っている。言葉が話

せないにしても、こういうことを知りたいとかいう中でお声がけをする。あとは、ユニバーサルデザインチェックの中でも、ユニバーサルマップやおもてなしマップについては、花の見所とか利用者の目に入ってくる場所に一緒に立てるので、そのように資料として示せるようなツールも用意していく予定ではある。特にインバウンドの方々は、滞在時間がかかり短い傾向があるので、例えば、おもてなしマップにしても、インバウンド用としては1時間で要所要所を回れるものも用意したほうがいいのかなと考えている。

(構成員) ひとつはお願いと、一つは質問。収支については、人件費を抑え、収入を少しずつ増やし、市の指定管理料を減らしていくような、大まかにいうとそのような形かなと思ったが、人件費を結構抑えられているが、この辺りは、何か強みというか、工夫をどのようにされたのか。

(応募団体) 人件費については、収支の計画では5年間でほぼ変わらない形としているが、内容としては、当然ベースアップも含んだ額で算定しており、効率的な配置と、専門性を持った直営のスタッフを現地に配置させてもらうこととしている。公園というのは天候にどうしても左右されやすい、冬場はお客さんが少なくなるということがあるので、その中で季節によってきちんとメリハリをつけて、効率的な配置をしていくことによって、人件費を抑えつつ、私たちが今、最大限取り組もうとしている花や緑の方になるべく回せるような効率的な配置をしたいと思っている。

(構成員) 今たまたま写真が出ているが、やはり花の公園はいろいろな所にあるので、ここでしか見られないような珍しい花、ここに出ているコキアとか、それからネモフィラ、そういう花はあまりこの辺りにはないと思うので、コキアを見るならあそこに行こうというような、特色のある修景を作り出していきたい。それと、水辺の景とか眺望景観とかいう言葉が出ているが、手入れが行き届いているが、自然に感じる、ランドスケープ的な視点をきちんと入れて、細部を作っていくということをしていただけたら、すごく素晴らしい公園になるのかなと、個人的に思った。

(構成員) 今の人の関係についてだが、柔軟なシフトで対応するとあるが、主にパート・アルバイトはシーズンごとに一般から募集するのか、それとも参加団体の中から時期に応じて人を出してもらうのか、そういうグループ内で手配が付くのかどうか、その辺りはどのようにお考えなのか教えて欲しい。

(応募団体) 公園のスタッフについての質問か。

(構成員) ピーク時に合わせた軟なシフトを組むと書いてあるが、プロパーの方を休ませたり出させたりすることは普通はないので、どこからか連れてくるという質問。

(応募団体) 基本的な最低限必要な人数については、私どもの共同事業体からのスタッフ、あるいは、地元雇用させていただいた方によって運営を行う。やはり、春とか夏は人数が足りなくなるので、その場合はやはり公募をかけて、臨時のスタッフさんに来ていただくということになる。

(構成員) 一般から募集するということか。

(応募団体) はい。

(構成員) 参加団体何十団体とかいう北九州の公園組合とかあるから、場合によっては、そちらから出されるのかなということも考えたものだから。

(応募団体) 基本的なスタッフは共同事業体から出すが、それ以外のスタッフについては、市民の方から応募するという形を取りたいと考えている。

(構成員) 横のつながりというか、他団体との連携や連絡会を作るとか、そういったお話が提案の中にあって面白いなと思って聞いていた。これも福岡市の方で実際に経験があるということかと思うのだが、これは実際に連携してもらう相手があつてのことなので、うまくいかなかった場合もあるのか。参加者がいないとか、一部の事業者だけ入ってこないとか。

(応募団体) 連携については、事前に他の指定管理者へインタビューに行かせていただいている。白野江さん、平尾台さん、勝山公園さん、これは緑化協会さんの会員企業でもあるので、公園単体ではなくて街をみんなで盛り上げていくことに、非常に賛同いただいているので、この「Kitakyu Park Network」への参加については、ほぼ内諾をいただいているという状況である。あと、ご質問のとおり我々は福岡市の雁ノ巣レクリエーションセンターの指定管理をやらせていただいているが、そちらでもうすでに指定管理者の連絡会をやらせていただいております、年4回程度、連絡会を開催させていただいている。

(構成員) 他に質問はないか。それでは以上で終了とする。事務局にお返しする。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○応募団体（グリーンパーク活性化共同事業体）より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 3つ質問する。グリーンパークは緑が魅力の公園だと思うが、グリーンパークならではの特性というものについて、端的にどのようなとらえているのかというのがひとつ。

それから、動物の入れ替えという内容の説明があつた。今もカピバラなど何種類かの動物がすでにグリーンパークにいると思うが、動物の入れ替えというのはどのように、どういう意味合いで使われたのか、もう少し詳しく説明をして欲しいというのが2つ目。

3つ目は、スライドでも紹介があつたとおり、提案書の231ページから連携先がたくさん記載されているが、公園関係や花や緑に関係する団体が少し見受けられなかったと思う。その辺りの連携団体はないのか、というところをについて確認させていただきたいというのが3つ目。

(応募団体) まず1つ目の公園としての特性のとらえ方については、冒険の森等にコナラとかクヌギがだいぶ群生しているので、今、そういった緑を癒しや安らぎの空間として管理をしていきたい、というご提案をさせていただいている。緑地の水準を高めてその中に入って、人が安らげるような木陰作りというものに配慮していきたいなと思っている。

それから2点目の動物の入れ替えについてだが、今も定期的実施している。まずは前回もそうだったのだが、熱帯生態園の入場者の方にアンケート調査を実施し、そこからニーズの高い個体を調べたうえで入れ替えや追加を実施している。カピバラやカワウソについてはアンケートでのニーズが高かったので追加して入れたという形になる。

(構成員) それは購入なのか、それとも借りるのか。

(応募団体) いろいろなパターンがあり、購入している場合もあれば、借りる場合もある。カワウソ

についてはブリーディングという方法で借りており、まだつがいではないが、動物園から借りて、将来的にはつがいのような形にして、少し数を増やしていくといったような取り組みの方法である。

それから花や緑に関する連携先について、書きそびれているが、例えば白野江植物公園などと連携し、フジバカマを植えて、アサギマダラのスタンプラリーを実施している。その他にもボランティア、バラのボランティアを我々で指定管理者として構成おり、今、地元の方と園内の緑の維持管理にご協力いただくという形を取っている。

(構成員) レジャー施設として見た時に、すごく魅力が高まって楽しそうな場になるのだろうかという印象をととても強く受けている。一方、インバウンドも含めて市内はもとより、日本国内、世界を見た時に、例えばバラ園を含めて、花とか緑とか水とかに関する個性の作り方について、何か今までと違う取り組みがあるとか、特にここの部分を強くアピールして魅力として高めていきたいとか、そういうところがあれば教えて欲しい。

(応募団体) 我々が管理運営を行っている中で、花については特に根強い人気があると感じている。平成26年度に市によって大花壇が撤去され、花壇の面積がいったん少なくなっているのですが、今、花壇の面積を徐々に徐々に増やしていつている。ただ、提案の中にもあるように、水捌け等も含めて土壌基盤があまり花壇に適していないので、そういった箇所については土壌改良したり、他の場所に花壇を作ったり、そういう対応を行うことで花壇面積を増やしている。まず一般的に喜ばれるような園芸種については、皆さんの目に付くような北ゲートや南ゲートに増やしていつている。それから、今回のご提案としてはプレゼンテーションにもあったとおり、年間50種類30万株の花々を徐々に増やしていこう、という取り組みをしたりしている。

バラについては、特にインバウンドの対象として、バラの4ヶ国語のマップを作っている。現在のバラ園の面積は1.3haだが、バラ園がすり鉢状の形状なので、なかなか拡張にくいという課題がある。そこで、すり鉢状の両側の法面を上手く使って、立体的なバラ園を演出しようということで、今、少しずつ法面のバラについて増やしていつている状況で、そういった花・緑といった取り組みをしている。

(構成員) ご実績があるということで非常に具体的な提案に感謝する。私たちが今後のことで少し気になるのは、園内に入ったときの園内馬車というご提案があったのだが、北九州市は少子高齢化の街なので、園に来ていただく高齢者、交通弱者のための交通アクセスをどのように考えていきたいのかというのが1つ。

それから満足度について、私の読み込みが浅かったのかもしれないが、12ページと79ページに満足度98%以上の維持ということと、非常に満足の60%達成ということが書かれているが、その違いをご説明いただきたい。

それから自己投資をされるということで、素晴らしいと思ったのだが、年間で約1,800万の収入を確保するという提案もあった。そのあたりも明確にお聞かせいただきたい。

それからもう1つは植物について。グリーンパークなので来場者のみなさんは植物のことに興味があると思う。その植物に関して、86ページにあるとおりのいろいろな植生とか生き物とかについて調査をされていて素晴らしいと思うのだが、その調査結果をどのように活用していくのについて、もう少しお聞かせいただきたい。



(応募団体) まず、少子高齢化に対する交通アクセスの対応についてだが、現在の園外からのアクセスは、車での利用が95%を超えている状況である。ただし、先程述べた花の時期やバラの時期については、高齢者からの公共交通機関に関するお問い合わせが多いので、今、市営バスさんや西鉄バスさんと連携して、路線バスを増やしてもらう対応を行っており、今後も継続してやっていくということになっている。現状ではバラフェア期間中という限定付きになっているが、小倉駅、黒崎駅、戸畑駅からバスを出してもらう取り組みが出来ている。あとは、我々でシャトル便を出すことなどを西鉄バスさんと市営バスさんと協力して徐々に増やしていこうと考えている。また、先程申し上げたチラシにも、公共交通機関の路線バスについては、増便しているということもきちんと掲載して、公共交通でも来園出来るというご案内もしている。

それから満足度での項目についてだが、現在の公園についてのアンケートの選択肢が「非常に満足」なのか「満足」なのか、それから「不満」なのか「非常に不満」なのか、この4つの選択になっており、満足度98%というのは「非常に満足」と「満足」を足した合計値である。177ページを見ていただくと、上に表があり、上の黄色くなっているところが「非常に満足」と「満足」を足した数字である。この満足度98%というのは非常に高い数字と認識しているし、これを維持するというご提案をさせていただいている。さらに、この表の中でも「非常に満足」に着目したときに、現在55%前後で推移しているこの「非常に満足」というものをもっと上げようという取り組みをしていこうという提案。それから、満足度は98%でまだ2%は不満という声が残っているということなので、この不満を解消する、あるいは不満を満足に上げるという取り組みをしていこうというのが、今回の満足度に関する提案の内容である。

(構成員) なるほど。それでは「非常に満足」だけで98%になることが理想ということだね。

(応募団体) それから、自己投資と1,800万円の収入の件については、208ページをご覧ください。金額は各ページの右上に記載しているが、209ページから提案している開園日を増やして約250万円、それから210ページの夜間開園した場合の収入やビアテラスのバーベキュー収入など、これらを足して年間1,800万円の収入を確保するという提案である。そして、当然この中から自己投資をしていく。先程のプレゼンテーションでも説明した、212ページに記載している、日本初のネットアドベンチャーについては、市と協議しながら、緑の中で、いつもとは少し違う感覚で、高いところから緑空間を楽しめるというような、新しい緑の見方とか使い方などを遊びとしてご提案したいというものである。よって、北九州市様と協議をしたうえで投資するということになるため、また、すぐに実現出来るものでもないため、この費用についてはご提案の中の収支計画からは除外している。

生態系調査については、九州工業大学と北九州野鳥の会を含めて2016年から2018年にかけて実施しているものである。我々は多くの利用者の方に楽しんでいただけるように、芝生広場や広いスペースでいろいろなイベントを実施している。その一方で、この生態系調査の内容も踏まえながら、緑豊かなグリーンパークの生態系にも配慮しながら維持管理をやっていかなければいけないという考えを持っており、調査結果を見ながら、例えば実のなる植物を増やしたり、植生に過度に人の手が入らないように工夫したりしなが

ら、生態系のネットワークの回廊の一つとして少しでもグリーンパークが役に立てればという想いで行っている、まだ継続中の生態系調査である。また、89ページに記載しているとおり、緑・花とかの情報については図鑑にしたいと思っている。来園者がこの図鑑を見ながら園内の緑を楽しめるようにしたいという事にも活かせるよう継続調査をしているところである。

(構成員) 新規事業として、パワーポイントの25ページ記載の事業が新しい事業だと聞いたが、その前に説明のあったいろいろなイベントは、今までやってきたイベントについてについて説明していただいたのか。

(応募団体) 今までやってきた定着イベントを改善していく、パワーアップしていくという内容である。

(構成員) それらにこの新しいイベントが加わるということだね。それと参考までに教えて欲しいのだが、やってみただけもうやめてしまったものがあれば教えて欲しい。あまり効果がなかったとか。

(応募団体) 特にやめたものはない。

(構成員) あと、フェスティバルをやるという話だが、音漏れ対策とかその辺りは大丈夫なのか。

(応募団体) 今までも大きなカラーランのイベントなどは音楽イベントとセットのファンランのイベントとしてやっているの、かなり大きな音が出ている。

(構成員) それは今までやっている？グリーンパークで？

(応募団体) 過去にやっている。そういう場合は、自治会さんなどに事前にご挨拶とご説明を行い、ご理解いただいたうえで、イベントを実施するという形をとっている。

(構成員) こんな内容の新しいイベントが出来るのであればいいなと思って。岐阜かどこかで今までずっとフォークジャンボリーか何かを実施していたのが、施設が使えなくなったという話があった。あんなのを引っ張って来たらいいのではないかと思うけど。

(応募団体) 事前のご説明も地区の方みなさんに公民館に集ってもらい、こちらからイベントのお知らせをしたり、この竹並地区をもっと盛り上げてくれというエールをもらったりして、協力的にやっている。

(構成員) 今回の新しい音楽イベントは30周年だけの実施なのか。翌年以降、別の形で継続的に実施する予定はないか。

(応募団体) こういった音楽イベントは花と馴染むので、今、ゴールデンウィークには小規模だが著名人を呼んで盛り上げ、秋にはミュージックバトルというイベントで、こちらは地元のミュージシャンを応援するという形で地元の人たちに参加いただいてコンテストを開催するという取り組みを実施している。

(構成員) 先程、園内移動について、他の構成員からも質問があったと思うが、プレゼンの中で馬車での移動というご提案があった。公園までのアクセスではなく、園内の移動について、馬車以外のものについて改めてお聞かせいただきたいというのが1つ。

次に、利用者アンケート等をしてデータベースを作っていくということだが、このデータベースの作成は外注せずにご自分達でコツコツと作成していくのか。また、このデータベースはグリーンパークだけの利用者満足とか利用者苦情とかに関するデータベースなのか、他のものも含めた比較的大きなデータベースの構築を想定されているのか、イメー

ジが沸きにくかったので教えていただきたい。

(応募団体) 園内移動については、きたぽっぽというトレインはあるが、最近では1日の集客が5千人を超えるような状況であるので、当然事故はないのだが、安全管理上、もう少し小回りが利く馬車を導入したいと考えている。トレインについては北ゲートまで回転して行けないという状況であるため、足の悪い方や移動に補助が必要な方が、北ゲートからバラ園や色々なところに移動できるように園内馬車であれば小回りが利いてより活用できるだろう。また、グリーンパークには「生き物との触れ合い」という設置目的もあり、それにも合致しており馴染むだろうということで、これを導入したいと考えている。

それから、アンケートのデータベース化については、基本的には共同事業体の内部で実施し、外注はしない。我々、アンケートはグリーンパークだけで、最低でも年間1,000サンプルは取っている。その結果には、利用者の満足度に加え、自由意見も非常に多く記載されているので、そこからいろいろな傾向を分析し、反省しなければいけない点や改善しなければいけない点をきちんとデータベース化して、その情報を朝礼や会議に諮ってスタッフとどういった改善をしていくかという議論に活かす取り組みをしている。

(構成員) プレゼンを見て一番気になったのが、先程質問のあった満足度のところなのだが、「まあまあ」を「満足」に上げることよりも、「満足」を「非常に満足」に上げることの方が実は難しいのではないかなという感覚がある。過去の実績を基に課題をたくさん挙げて、それを解決するという形でいろいろと提案されていると思う。しかし、その解決だけではおぼつかない、「非常に満足」というのはそれくらいすごく難しいことかな、と私個人としては印象があるのだが、そのために問題意識を持って取り組もうと思われていることや、問題意識自体でもいいので教えて欲しい。

(応募団体) 180ページ見て欲しいのだが、今回、満足度の分析を実施した。「満足」というのは公園全体の満足度を示しているのだが、この公園全体の満足度について「満足」を示された方は、どういったものに反応されたかというのがこの模式図である。問題意識というものに馴染むかは分からないが、先程ご指摘いただいたとおり、「満足」を「非常に満足」にするのは非常に難しいと我々も思っているが、その「満足」から「非常に満足」にするきっかけが、こういったカテゴリーにある、というヒントだと思っている。100%全てこれをやったら「満足」から「非常に満足」に上がるとは思っていないが、こういった取り組みはヒントだと思っているので、これらを少しずつ実施していくことで「満足」から「非常に満足」に上げられるのではないかなと思っている。

(構成員) 冬季の集客はどこの施設も苦労していると思うが、集客対策としてイルミネーションをされている。実際にはどういった時間や期間で実施しているのかを確認したいのと、いろいろなところで、樹に電球をつけると植物には良くないということも聞くのだが、その辺りはどうなのか。

(応募団体) まず、イルミネーションの期間については、12月から2月までの約3か月間の金土日祝日を考えている。グリーンパークの周辺に光がないこともあり、街中のイルミネーションとは光の見え方が違うというか、より映えて見えるということもあるので、冬季の集客対策としてそれを上手く使いながら実施し、場合によっては、もっと内容を増やしていきたい、また、日数も増やしていきたいと思っている。

イルミネーションのつけ方については、確かにおっしゃるとおり、樹にもつけたりもしている。今後は、芝生の上も使ってオブジェのようなものを作り、それに取り付けるといふ取り組みもやっていこうと思っている。また、オブジェへのイルミネーションは建物に付けたりすることで、少しインスタ栄え、写真スポットになるようなイルミネーションの場所を、少しずつ増やしていく取り組みをしている。

(構成員) それに関連して、これはお願いになるのだが、イベントをやらないとお客さまが来ないというのは、どこの施設にも共通する悩みである。しかし、グリーンパークというのは緑を活かした施設であるので、努力が必要にはなるが、イベントだけに頼った集客だけではなく、自分達の財産を活かすような集客への取り組みを行っていただきたい。

(構成員) 他に質問はないか。終わってよろしいか。それでは以上で事務局にお返りする。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○構成員は、審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、市政や設置目的等を十分に理解したうえで、問題意識を持って理念・方針を定めている。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、公園のにぎわいや活性化だけでなく、それを市のイメージアップにつなげる「公園が街をつくる」という運営理念は評価できる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、それぞれの構成団体が十分な基盤と実績を持った団体であり信頼性は高いと思う。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、これまでの実績も踏まえて課題を明確化し、それらの解決と市の設置目的を実現する理念や基本方針となっている点が評価できる。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、現在の指定管理者として高い評価を得ている。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、実績・経験は十分に評価できるが、財政基盤について少し弱いところがあると思う。

(構成員) 審査の結果、「指定管理者としての適性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「管理運営の理念」、「人的・財政基盤」、「実績・経験」の項目が4

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「管理運営の理念」、「人的・財政基盤」の項目が3、「実績・経験」の項目が4  
が妥当であると考えます。

○構成員は、審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、公園の設置目的に沿って、この公園の価値を高める視点での取り組みが提案されており、また、その熱意・意欲も感じられる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、利用者はもちろん、利用者以外のニーズも把握して集客に活かそうとする取り組みは評価できる。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、集客・運営を広域で考えており、この公園の特性を考慮した実現可能性の高い提案がなされている。

(構成員) 響灘緑地パークアップ共同事業体は、他の公園でうまくいったものと同じものをグリーンパークにも当てはめようとしているが、後出しかつ小規模なものでやっても、真似したように見えてうまくいかないのではないかな。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、多方面にわたる事業計画、過去の5年間の経験を活かした提案内容となっており評価できる。公園としての特性を活かしたプラン、中・長期的な視点については、やや不安が残る。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、課題や苦情への対応方法などがきめ細やかで具体的でよい。また、多様な意見収集のやり方とデータベース構築などの提案も評価できる。

(構成員) グリーンパーク活性化共同事業体は、花・緑といった公園の魅力を向上させる要素に対する提案が少し弱いと感じた。花と緑が魅力のグリーンパークの特性が十分に活かされないのではないかな。

(構成員) どちらの共同事業体の提案内容も、正直、甲乙つけがたかった。一方は花や緑の公園としての魅力をより高める中長期的な提案、もう一方は多彩なイベントでさらに賑わう公園を作る提案となっていたと感じており、両者の特性・性質が違うが、どちらにお任せしても運営状況さえよければ安心だと感じた。

(構成員) 審査の結果、「有効性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「設置目的の達成」、「利用者の満足度」の項目が4

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「設置目的の達成」の項目が4、「利用者の満足度」の項目が3  
が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) どちらの共同事業体も提案として素晴らしいものがあることに加えて、実現可能な計画となっている。

(構成員) 審査の結果、「効率性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3  
が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) どちらの共同事業体も市の要求水準を満たしており、管理運営体制や平等利用、安全対策、危機管理体制についても問題はないと思う。

(構成員) 審査の結果、「適正性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○響灘緑地パークアップ共同事業体は、「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3

○グリーンパーク活性化共同事業体は、「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3  
が妥当であると考える。

○構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

響灘緑地パークアップ共同事業体は、国営公園等における公園の管理運営の実績を活かした、景観計画に基づく植栽管理による「水辺の景」や「眺望景観」の確保、緑や花の更なる魅力向上などによって、公園としての価値をより高めようとする姿勢や中長期的な取り組みが提案されている。また、公園が北九州市という街の印象を変えるパークマネジメントの実施、市内都市公園連絡会や北部九州のガーデンツーリズムの広域観光の取り組みなど、視野の広い取り組みの提案がなされている。さらに、園内モビリティの導入や福祉団体向けの駐車場利用の工夫など、公園へのアクセス・園内の移動補助に関する提案が評価できる。

グリーンパーク活性化共同事業体は、今までの5年間の成果と今後の課題についてしっかりと分析を行い、その課題を解決するための、きめ細やかで数多くの具体的な提案がなされている。緑地管理や花壇管理については市の要求水準を超える維持管理を実施しながら、定着している既存イベントの実施による継続的な利用促進を図ることに加えて、新しいイベント実施を提案するなど、集客について非常に意欲的で、多彩な取り組みが提案され、さらに高みを目指そうとする姿勢が評価できる。

協議の結果、響灘緑地の花や緑の魅力向上などにより、公園としての価値をより高めようとする響灘緑地パークアップ共同事業体も、指定管理者として十分相応しいと認められる提案を行っているが、検討会としては提案内容などから総合的に勘案して、現状の課題分析に基づくきめ細やかで数多くの具体的な提案を行い、地元団体に対する優遇措置及び優秀指定管理者に対する優遇措置の加点を含めた最終的な合計得点が高くなっている、グリーンパーク活性化共

同事業体が指定管理者の候補として最も相応しいと判断する。

○とりまとめを行って、検討会を終了した。